事例発表　経営部門(酪農)

「人と牛に優しい
ミルクファクトリーを目指して」

株式会社 Moimoi ファーム
代表取締役　堤　富士人　様

1　地域の概況

当該経営は平成 17 年 3 月 21 日に 12 市町村の合併で新たに新潟市となった旧味方村に位置している。新潟市の農業は、米をはじめとした野菜、果樹、花きの生産が盛んで、大消費地と一体となった都市近郊農業が行われている。畜産は、新潟県の畜産の産出額に占める割合は約 9%となっており、中でも酪農は飼養頭数の県内に占める割合が約 19%と県内 1 位と盛んである。

2　経営の概況

（1）労働力

総労働数 （人／年）	家族 （人）	常時雇用 （人）	パート （人／日）	研修生 （人／日）
4	1	3		

（2）経営の実績・技術等の概要

項　目	単位	平成 24 年時の実績
経産牛平均飼養頭数	頭	63.0
年間生乳出荷量	kg	598,242
経産牛 1 頭あたり乳量 (年間生乳出荷量／経産牛平均飼養頭数)	kg	9,496
経産牛平均産次数	産	2.7
平均体細胞数	万個	16.8
乳飼比	%	55.0
受胎に要する種付回数	回	3.3
平均分娩間隔	か月	15.9
水稲作付面積	ha	(全面委託)
堆肥販売量(AOBA)	t	約 1,200t

※AOBA　耕種農家 13 戸と酪農家 2 戸で平成 7 年に設立した任意の堆肥利用組合

（３）主な施設・機械の保有状況

施　設	機　械
牛舎、フリーストール牛舎、パーラー、事務所	ミルカー、バルククーラー、換気施設、スクレーパーバーンクリーナー、ローダー

（４）近年の活動の推移

年 月	事　項	備考(左記に伴う施設整備等)
平成 18 年 5 月	暑熱対策として、つなぎ牛舎にトンネル換気を設置	トンネル換気設備
平成 18 年 6 月	牛床の延長及び牛床マットの入れ替えによる牛床改善	牛床の延長工事、牛床マット
平成 18 年 7 月	ミルカーの搬送レール設置による作業の効率化	ミルカー改良
〃	ミルカー真空ポンプ及びミルクホースの高性能化により、生乳の流れ改善による乳房炎防除対策の実施	〃
平成 19 年 6 月	暑熱対策として牛の毛刈りを実施	
〃	暑熱対策としてフリーストール牛舎にトンネル換気設置	トンネル換気設備
平成 20 年 11 月	乳房炎防除対策として、分娩前乳汁検査を開始。異常があった場合は家畜保健衛生所へ乳汁検査を依頼し、速やかな対応を実施している。	
平成 20 年 12 月	クリーンミルク生産農場に認定	
平成 20 年度	消費者への酪農理解促進及び子供達へ酪農を通じた食といのちの大切さを伝えることを目的に、酪農教育ファームの認証取得	
平成 21 年 5 月	事務室の改修による労務環境の整備	事務室改修工事、エアコン、パソコン等の設置
平成 21 年 9 月	第1回乳房炎対策検討会の実施	
平成 21 年 10 月	搾乳ビデオ撮影及び第2回乳房炎対策検討会の実施	
平成 22 年 3 月	きめ細やかな飼養管理のため、従業員を増やし、4 人体制を確立	廃業した牛舎購入
〃	消費者への酪農理解促進及び子供達へ酪農を通じた食といのちの大切さを伝えることを目的に、ファシリテーターの認証取得	
平成 23 年 3 月	規模拡大に向けて廃業した牛舎を購入	廃業した牛舎購入
平成 24 年 4 月	酪農体験等受け入れのための環境整備	牛舎周辺の庭づくり等環境整備
平成 24 年 8 月	(株)Moimoi ファーム設立	
〃	繁殖問題検討会の実施	
平成 25 年度	今後は搾乳ロボットを導入し、110 頭まで規模拡大する予定	

3　特色ある経営・生産活動の内容

（１）生産活動

平成 16 年以降、廃業した牛舎の購入と増築により、経産牛 38 頭から 65 頭（平成 24 年 6 月末現在）に規模拡大したことで、年間総生産乳量は規模拡大前の 330ｔから 1.8 倍の 599ｔに増加した。

労働力については、雇用を活用しながら規模拡大し、酪農経営を発展させてきた。平成 24 年 8 月には法人化し、現在は、平成 25 年度 に搾乳ロボットを導入して 110 頭規模まで拡大する目標に向かって取り組む等、先進的な酪農経営を実践している。

（２）飼養管理の改善

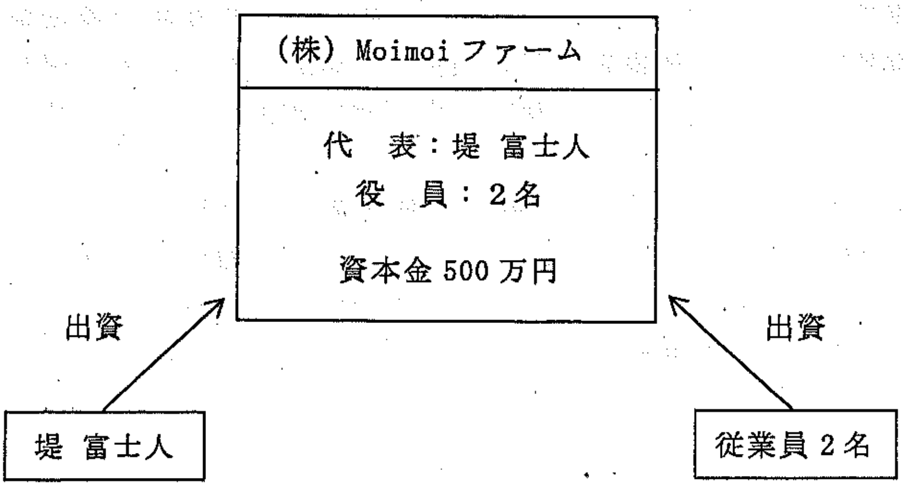
連続水槽設置による飲水量の確保や、換気扇はもとより、細霧システム・トンネル換気・毛刈り等暑熱対策の徹底、厚みと弾力性を備えた牛床マットの設置等カウコンフォートに留意した飼養管理を行っている。

乳房炎対策として、ミルカーの真空ポンプやミルクホースの高性能化等機械面での対策を実施するとともに、搾乳ビデオ撮影をもとにした対策検討会の実施や分娩前乳汁検査等の対策に取り組むことで、年間平均体細胞数 16.8 万個と良質乳生産を実施しており、平成 20 年には、「クリーンミルク生産農場」に認定されている。

（３）経営の継続性

酪農経営は後継者不足により、廃業する経営体が増加している状況にある。経営主は、酪農経営の継続に向けて、非農家であっても意欲のある人が酪農経営が可能となる形態を目指して、平成 24 年 8 月に「(株) Moimoi ファーム」を設立した。

法人の構成と出資額



平成 22 年には従業員を増やしたことによってゆとりが生まれ、平成 23 年には従業員 1 人と一緒にニュージーランドへ研修に行くなど、年に 1 回程度の長期休暇の取得が可能なゆとりある酪農経営が実現できた。

当農場では、従業員と一丸となった農場成績の向上に努めるため、毎月 2 回、担当を決めて農場内で勉強会を実施している。

これらの取組により、従業員 3 名の給与を含めた所得は 1,292 万円（経産牛 1 頭当たり 20.5 万円）と安定的な雇用が可能となっている。

「経営で最も大切なものは“人”である。1 人 1 人が人としてスキルアップしていくことが大切であり、それが技術、経営向上につながると信じている。」という経営主の考えから、従業員を単なる「労働力」ではなく、一緒に働く仲間として「育てていく」というスタンスで接している。その結果、従業員の向上心が育まれ、経営発展につながっている。

4　地域への貢献

（1）先進的な酪農経営継承事例の波及

酪農経営は概して家族経営が多いため、家族労働で対応可能な規模や、ヘルパー以外は休日が取れない経営体が多い中、堤氏は従来から、雇用を活用することで家族経営の課題を解決した、先進的な酪農経営として周囲の酪農家から注目されていたが、今年の 8 月に法人化したことにより、「これからの酪農経営の進むべき姿」として今まで以上に周囲の酪農家へ与える影響は大きくなっている。

また、「クリーンミルク生産農場」として、常に乳質向上への取り組みを怠らない姿は、地域の酪農家の乳質向上への意欲向上につながっている。

（2）土づくりを通した地域の高品質・良食味米生産への貢献

堆肥散布による土作りを行うことで、高品質・良食味の農産物生産を目指す耕種農家 13 戸と酪農家 2 戸の 15 戸で平成 7 年に任意の堆肥利用組合 AOBA を発足し、平成 8 年に国及び県の補助事業を活用して堆肥センターを設置した。

酪農家である堤氏と土作りに熱心な稲作農家との話し合いから、堆肥利用組合 AOBA が発足したが、堤氏は発足当初から現在まで継続して、堆肥作りの中心的な役割を担うだけでなく、AOBA の事務会計担当も担っており、次年度の計画等の素案作り等 AOBA の中で中心的な役割を担っている。

その結果、地域の耕畜連携が進み、堆肥を活用した高品質・良食味米のマニュアル化が図られたことにより米の評価が上がり、近隣地域へも堆肥散布を望む声が広がった。

	H18	H24
堆肥散布面積	70ha	120ha

（３）酪農教育ファームの取り組み

消費者への酪農理解促進、子供達へは酪農を通じて食といのちの大切さを伝えることを目的に酪農教育ファームの認証及びファシリテーターを取得している。消費者への酪農のイメージアップを図るため、平成24年3月には牛舎周辺の庭づくり等、環境整備に努めている。

特に、今年度からは法人化したことで社会的な責任も重くなっていると感じており、今まで以上に酪農教育ファーム認定農場として、消費者や子供達の受け入れを進めている。

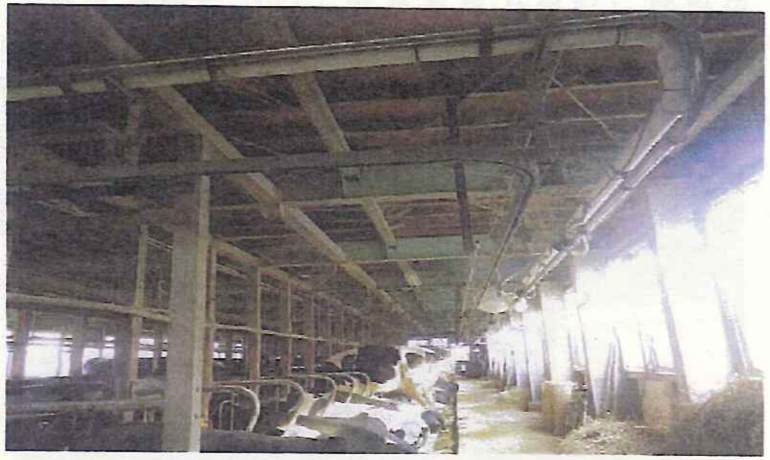
そして、酪農及び食といのちの大切さについて消費者に直接働きかけることで、非農家からの農業理解や、将来の酪農後継者育成へのきっかけとなるよう積極的に取り組んでいきたい。

5　今後の経営展望

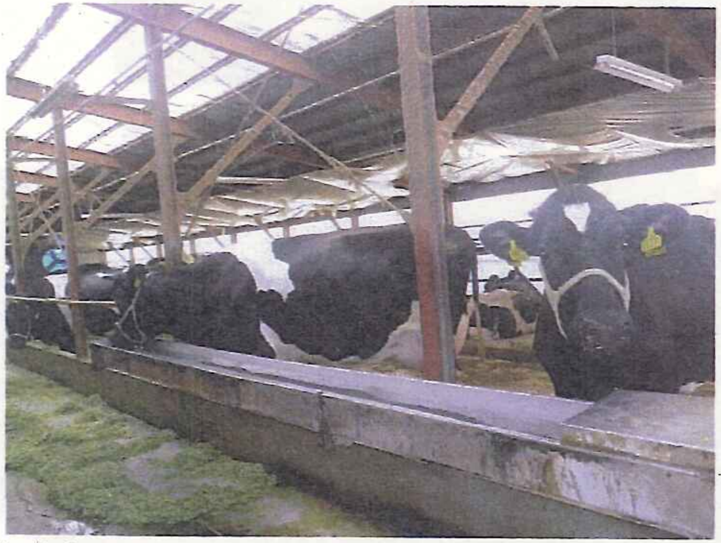
乳量は、経産牛1頭あたり10,000kgを目標に取り組んだ結果、年度によって下回ることもあるものの、19年度に10,448kgと目標を達成した。今後は、搾乳ロボットの導入やカウコンフォートに留意した高度な飼養管理技術により生産性を向上し、さらに高い目標を目指す。

（株）Ｍｏｉ　ｍｏｉファームの経営の特徴

連続水槽で、いつでも新鮮な水が十分に飲める



ミルカー搬送レールで労働力軽減



十分なエサと水が確保されたフリーストール

乾乳から分娩まで、広々としたスペースを確保

トンネル換気で快適な牛舎環境

暑熱対策として、細霧システムを導入

十分に厚みのあるマットで牛はリラックス

事務室改善により、休憩時間は人もリラックス

搾乳手順について社員全員で熱心に検討中

H20クリーンミルク生産農場に認定

H20酪農教育ファーム認証牧場へ

消費者用にカワイイ看板も設置

牛舎の周囲の環境を整備。リラックスできる机とイス

従業員の石黒さんの記事が「感動通信」に掲載されました